

10月『職業奉仕月間』に寄せて

私の職業奉仕

職業奉仕部門担当諮問委員

パストガバナー 大館清次 (朝霞RC)



平成5年3月、私は45年間勤務した職場を無事退職した。その間に私の前を通り過ぎていった者は9,000余名、私の分身たちが社会に出てそれぞれの分野で活躍している姿を見るとうれしく思い、同時に教師という仕事を選択したことは誤っていなかったとつくづく思う。

私は在職中、常に塾祖福沢諭吉の教え「気品の泉源、智徳の模範たるべし」を説いた。昭和50年11月、朝霞RCに入会させて頂いたが、ロータリーの綱領に出会ったときは、思わずひざを打った。すなわちその第2項に「事業及び専門職務の道徳的水準を高めること…、そしてロータ

リアン各自が業務を通じて社会に奉仕するために、その業務を品位あらしめること。」とある。私が日ごろ後輩たちに説いていたことが、ロータリーでも力説されていたのである。

1996 - 97年、皆様のご推挙によって地区ガバナーの大役が私に回ってきた。年度のテーマは“築け未来を—行動力と先見の眼で—”であり、次世代の若者の育成に力が注がれた。まさに“我が意を得たり”の感強しであった。

昨今、政界でも業界でも、品性を疑いたくなるようなリーダーを目にする。寂しい限りであるが、我々も“他山の石”としなければならない。

職業奉仕とは

職業奉仕部門委員長

橋本正彦 (朝霞RC)



「どうも職業奉仕はよく分からない」という声をよく耳にします。確かに職業は会社の利益を目的とする商行為であり、奉仕は世のため人のために利益を求めない行為です。この正反対の言葉を合体させて職業奉仕と言うのですから、分かりにくいのも無理はないかも知れません。しかし、ロータリーの先人がこの二つの言葉を合体させたところに、ロータリーのロータリーたるゆえんがあります。

江戸時代の心学者、石田梅岩が「商人の活動は、社会を益するものでなくてはならない。しかし、私利私欲があっては世の人々に見捨てられ

る。あくまで“先を立て、我を立てる”考えを守るべきだ」と説いています。なんとシェルドンの教えである「最もよく奉仕するもの、最も多く報われる」とも共通するのです。

多くの人の善意の気持ちのこもったお金、これが職業奉仕で得たお金です。ですからロータリークラブは寄附団体でも、慈善団体でも、ボランティア団体でもなく、ロータリアンの一人ひとりが職業を通して“奉仕の心”を開発していく団体であると言えます。したがって、ロータリーは職業奉仕が原点であり、団体奉仕ではなく、個人奉仕が第一義であると言われるのです。

10月『職業奉仕月間』に寄せて

今年度の目標と予定

職業奉仕委員長
野原正次郎 (川越西RC)



新年度、既に2ヵ月を経過致しました。

今年度の目標と予定とをあわせて各ロータリークラブの職業奉仕委員長、会長にお願いを申し上げます。

1) 職業奉仕研修会を7月12日第2グループにおいて開催致しました。

今後の参考のため地区内の委員長にも参加して頂き、100名弱の出席のもと大変感動的な経済講演に盛大な拍手と賞賛を頂きました。

次回は第1グループを中心として、9月20日(土)川越氷川会館にて開催し、10月に第3

グループを予定しております。

2) 年度後半、県内のNGO アジア&アフリカを通じて、会員のたんすに眠っている衣料品をアフリカを中心に支援する企画をしています。

3) 各ロータリークラブにおきまして、各会員の『職業倫理と職業紹介』の冊子の作成です。上記の2項目は地区主導で行いますが、これは10月の職業月間をめどとして、各クラブの職業奉仕委員長を中心に作成して下さい。

できれば、私の職業倫理観として、2回くらい卓話時間を利用して数名の会員の発表をして頂きたく、お願い申し上げます。



家族親睦例会を開催

坂戸ロータリークラブの「家族親睦・バーベキュー例会」が8月28日(木)午後6時より、坂戸市民総合運動公園の野外施設(キャンプ場)で行われた。当日は高山ガバナー、坂戸ロータリークラブ名誉会員の伊利市長をはじめ、家族委員会関連の地区役員、そして近隣クラブの会長幹事を来賓に迎え、ロータリアン家族・ロータリー家族が多数参加し、盛大に行われた。



夏の夜のひとときを「バックキー白片とアロハ・ハワイアンズ」の歌と演奏とフラダンスを堪能し、会員・家族間及び近隣クラブ会員との親睦を図った。また、バーベキュー、施設設営に関しては、子クラブである坂戸さつきクラブ会員の全面協力があった。すべて手づくりということで、企画・準備をすることで会員間の親睦も図れ意義ある例会となった。